

日	時	内 容	講 師	方 法
9/19	午前	生活構造と生活設計	岡村 益	講義・討議
9/19	午後	社会教育における放送の利用 について	五十嵐淳	〃
9/20	午前	社会教育行政と社会教育主事 の職務	湯上二郎	〃
9/20	午後	閉 会 式		

(6) 研究会に作成した資料

- ① 昭和44年度社会教育主事研修会要項
- ② 市町村社会教育主事研修会実施報告書

(7) 効 果

高湯白雪荘に全員合宿し、長期研修の機会をもち講義・研究討議をととして熱心な研究が行なわれ、一般教養と社会教育の専門的教養を高め、社会教育主事としての資質の向上と指導力の強化がはかられたものと思われる。

3 社会教育委員研究協議会

(1) 目 的

社会教育委員の性格、任務、および活動上の諸問題について研究協議を行ない、もって本県社会教育の振興に資する。

(2) 期日・会場・参加者数

- ① 期 日 昭和44年6月26日(休)～27日(金)
- ② 会 場 福島市高湯 白雪荘
- ③ 参加数 83名

(3) 講 師

東北大学教育学部教授 竹内 利美
福島県教育庁社会教育課長 大越源三郎

(4) 参加対象者

市町村社会教育委員

(5) 内 容

- ① 研究主題
社会教育の振興をはかるための具体策について
- ② 講 義
・成人教育の現代的意義について 竹内 利美
・社会教育委員の性格と任務 大越源三郎
- ③ 分科会研究協議題
ア. 青少年教育の振興充実方策について
イ. 成人教育の振興充実方策について
ウ. 社会教育施設の拡充方策について

(6) 効 果

講義、分科会討議等において、「市町村教育委員研究協議会資料」を活用して、本県社会教育の現状を検討し、さらに、社会教育委員の性格、任務について理解を深め、市町村社会教育計画についての諸問題について研究協議され、社会教育委員として今後の活動が期待される。

4 社会教育研究協議会

(1) 趣 旨

社会教育行政関係者と社会教育行政に関連する行政関係者の参加を得て、相互の理解を深めるとともに、社会教育について総合的な研究協議を行ない、もって社会教育の振興および地域の発展に寄与することを目的とする。

(2) 期日・会場・参加者数

期 日	会 場	参加者数
44年9月2日	小高町公民館	131
〃 9月4日	福島市中央公民館	139
〃 9月9日	石川町公民館	150
〃 9月11日	喜多方市公民館	190

(3) 講 師

東北大学教育学部教授 竹内 利美
東北大学教育学部教授 塚本 哲人
山形工業短期大学主事 江田 忠
県教育庁教育次長 大塚 喬清

(4) 参加対象

市町村長、市町村議会議長、市町村教育委員会教育長、小中学校長、公民館長および教育委員、社会教育委員、公民館運営審議会委員、明るく正しい選挙推進協議会委員

(5) 内 容

- ① 研究主題
社会教育とこれに関連する行政機関、団体が行なう教育活動をどのように編成したらよいか。
- ② 分科会協議題
ア. 地域振興と社会教育行政をどのようにすすめたらよいか。
イ. 家庭教育の振興、青少年育成のための教育活動をどのように推進したらよいか。
ウ. 明るく正しい選挙のための教育活動をどのように推進したらよいか。
エ. 貯蓄やかしい消費をととして、家庭生活の合理化のための教育活動をどのように編成し、推進したらよいか。
- ③ 講 演
現代における地域社会の特質と社会教育の課題

(6) 効 果

社会教育関係者と社会教育に関連する行政機関関係者が一堂に会しそれぞれ行なう教育活動をいっそう効果的にするために、相互理解と協力体制の必要が認識され、各課題ごとの分科会を通して具体化され、今後より効果的な教育活動をそれぞれ行なううえで大きな示唆を与え、社会教育振興のために効果をあげ得たと思われる。

5 社会教育研究指定市町村

(1) 趣 旨

社会教育と社会教育に関連する他の行政機関、団体の相互理解を深め、緊密な連係のもとに、それぞれが行なう教育活動を総合的、計画的に進めるための具体的方策について調査研究を行ない、これが実践をととして、市町村社会教育の振興と地域社会の進展に寄与するため研究指定する。

(2) 研究指定市町村

区 分	指定市町村	区 分	指定市町村
信 夫	伊達郡 飯野町	北 会	河沼郡 河東村
伊 達	伊達郡 月館町	耶 麻	耶麻郡 北塩原村